

ここがすごい!
我が診療科

精神神経科

精神神経科 科長 金沢 徹文(写真左)
精神神経科 藤本 健士郎(写真右)



神経精神医学教室、助教(准)の藤本健士郎と申します。教室員としてお迎えいただいてから、7年目となりました。今回は、「ここがすごい!我が診療科」との難しいテーマでの寄稿を拝命致しました。本稿を起こすにあたってバックナンバーを拝見したところ、教授や講師の先生方が執筆されることが慣例のようですが、若手ならではの視点ということでご容赦いただいて、私に映る教室の魅力をこちらで共有したいと思います。

私たち教室員は、仲が良いです。働く仲間同士への配慮があります。「心因」を主題として取り扱うことも多い精神神経科という専門性を差し引いたとしても、協力して気持ちよく仕事をしようという気風があります。私は7年前に、他大学の他科から転科してきました。今でもよく覚えていますが、当時見学にお邪魔した折に対応くださった米田博先代教授、当時医局長でいらし

た金沢徹文現教授をはじめとした、医局員の先生方同士の穏やかな掛け合いに惹かれ、入局を決めたものでした。大袈裟かもしれませんが、こうした心理的な風通しの良さは、先輩諸氏から脈々と受け継いできた伝統のようなものです。いま大学に勤めている我々のみならず、同門会という大きな括りでも同様で、関連市中病院や関連開業医の先生方とは診療面においてもスムーズな連携を図ることができています。今では、そんな私が後進に向けて医局の魅力を発信する側の立場になりました。広報活動のひとつとして、令和4年度には、「あなたらしく、進もう。」をテーマとして教室ホームページを刷新しました。幸いなことに、院内外の多数の若い先生方が、当教室に関心を寄せてくださっています。

私たち教室員は、それぞれの仕事に一生懸命に取り組めます。臨床分野では、当科の院内に



おける役割は多岐にわたります。一般的な入院・外来診療は勿論のこと、認知症、思春期疾患、性別違和、減薬外来等の専門外来も開いているほか、rTMS(反復経頭蓋刺激)療法やmECT(修正型電気けいれん療法)、クロザピン(治療抵抗性統合失調症に適応のある抗精神病薬)導入など、先進的な精神科診療に対応します。また、他科からの依頼を受けて往診するリエゾン・コンサルテーションの依頼件数も年々増えていて、他科とコラボレーションする機会は多く、日常臨床における精神的な視点の重要性を日々感じています。特に、令和4年7月のA棟オープン以降は、当院が大阪三島医療圏の三次救急拠点病院としての役割を担う中、精神疾患合併例や自殺・自傷関連の搬送件数が劇的に増加しました。自殺企図患者に対する退院後フォローアップを目的とした仕組みとして、救急医療部、地域連携部、保健所と連携した「いのちの相談支援事業」といった取り組みも進めていて、医療の立ち位置だけでは介入困難な事例に対しても、行政・福祉の関係機関と適切に連携を図るよう努めています。

私たち教室は、優秀なコメディカルスタッフに恵まれています。看護師、公認心理師、薬剤師、精神科専任ソーシャルワーカー、医事課スタッフ、医局秘書も含め、数多くの職種のスタッフと協働して、日々の業務に取り組みます。当科の擁する61病棟は、精神保健福祉法上の指定を受けている精神科病棟で、入院患者の中には医療保護入院等の非自発入院の方も多くおられます。症状によっては隔離や拘束処遇などの行動制限を余儀なくされるケースもある中、医療安全や倫理的側面への配慮は欠かせません。他

職種の視点が身近に得られる環境があることは私たち精神科医にとっても気付きの機会となり、安心感があります。医療の質は保ちつつ、数もこなすというミッションは簡単ではありませんが、多職種連携を図りながら、個別性の高い安全な精神科診療が実践できるよう心掛けています。

また、研究に関しては、当教室は、遺伝子分野や炎症性マーカーの開発といった基礎研究、薬物療法・脳刺激療法(通電療法、磁気刺激療法)をはじめとした臨床生物学的な研究、および、他施設とも協働した心理社会的な研究を精力的に行ってきました。加えて、本年5月より、神経生理学や認知機能研究の分野で活躍されている西田圭一郎准教授が新たに教育医長として赴任されました。教室全体として研究体制を再構築して、大学病院の役割に応じた総合的な精神科研究を継続的に行い、日本や世界に情報を発信し、次世代の精神科医療を提案していきたいと考えています。

これからも、私たち教室は、精神神経科の視点から、大阪医科薬科大学の発展に貢献していきたいと思っています。教室員一同、よろしくお願い申し上げます。



大阪医科薬科大学
神経精神医学教室ホームページは
こちらから

<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/psychiatry/>

一般・消化器・小児外科

一般・消化器・小児外科 科長

一般・消化器・小児外科

李 相雄

今井 義朗、田中 亮、濱元 宏喜、
朝隈 光弘、米田 浩二、富山 英紀

一般・消化器外科学教室は、診療科単位では「一般・消化器・小児外科」と「乳腺・内分泌外科」からなる臨床診療科であり、現在37名の教室員を擁しています。平均年齢も若く活気に満ちた教室であると自負しています。本稿では「一般・消化器・小児外科」の各診療班での診療内容をご紹介します。

1. 機能改善班

班長：今井 義朗

『超高齢社会のニーズに即した身体機能の改善』、そして『高血圧症や糖尿病などの慢性疾患に対する代謝機能の改善』に特化した診療班です。老化に伴う退行性変化により鼠径部ヘルニア、食道裂孔ヘルニア、直腸脱など、様々な疾患が増加しています。これらの退行性疾患に起因する諸症状(痛み、違和感、不快感、食道逆



当科で開発した手術器具



単孔式手術を受けられた患者様

流症状、便秘、下痢)を改善し、健康な日常生活を取り戻してもらうことを目的に、質の高い低侵襲手術を提供しています。

お臍のくぼみを利用した単孔式手術を基本術式としており、術後の傷みが最小限で整容性にも優れており、多くの方々に満足していただいています。

2. 上部消化管班

班長：田中 亮

食道癌、胃癌、胃十二指腸粘膜下腫瘍などに対する手術を担当しています。

食道癌手術では、年間40例超の胸腔鏡下食道亜全摘術を行っており、近年ではロボット支援下手術や縦隔鏡下手術も導入しており、超高齢者にも安全で低侵襲な術式を行っています。高度に進行している場合には化学放射線療法を組み合わせた集学的治療も積極的に行っています。頸部食道癌に対しては耳鼻咽喉科や形成外科と共同で拡大手術に取り組んでいます。

胃癌手術では、ロボット支援下手術を基本に約120例の外科的治療を行っています。これまでに2500例にも及ぶ低侵襲胃切除術の実績があり、根治性と安全性を兼ね備えた胃切除術を遂行する技術を誇っています。高度進行胃癌であっても術前術後に化学療法を併用することで“治る”ことを望める時代です。胃切除後の方が元気に社会復帰できるように、退院後に多職種チーム医療による栄養指導を行い、切れ目のないケアを行っています。

3. 下部消化管班

班長：濱元 宏喜

大腸癌を中心とした小腸大腸疾患を扱っています。他院で永久人工肛門が必要と診断されるような直腸癌に対して、肛門を温存した直腸切除術(肛門外括約筋を温存)を100例以上経験しており、国内外から高い評価を得ています。さらに、直腸癌治療で注目が高まっているTNT (Total Neoadjuvant Therapy)療法も積極的に進んでおり、進行直腸癌であっても手術を回避できる可能性もあります。

一方で、最新の手術支援ロボットであるダヴィンチを用いた結腸癌手術も積極的に行っており、これまで以上に精緻で低侵襲な大腸癌手術を提供しています。

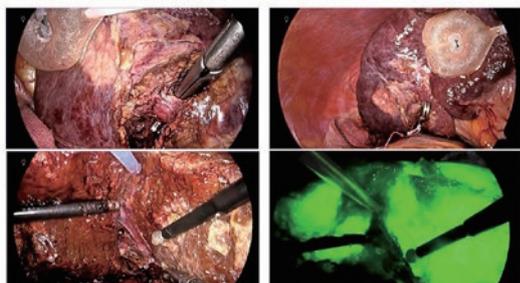
4. 肝胆膵班

班長：朝隈 光弘(膵)

米田 浩二(肝)

年間、肝切除100例、膵切除90例のうち、半数以上でロボット手術や腹腔鏡下手術などの低侵襲手術を施行しています。肝切除手術で

腹腔鏡下S7亜区域切除



腫瘍を光らせる

肉眼的にみた腫瘍

ICG蛍光法にて改めて確認



腹腔鏡下右葉切除

肉眼的には何となくわかる阻血域

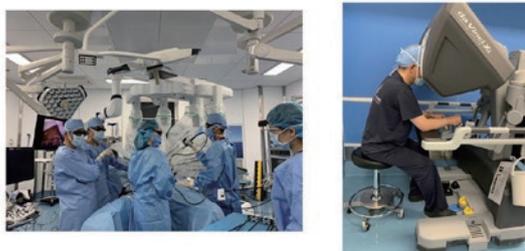
ICG蛍光法にて可視化



は、3次元CT画像による術前シミュレーションとICG試薬を用いた癌の可視化による術中ナビゲーションにより、これまで以上に精度の高い手術を行っています。

膵手術においては、術前と術後の化学療法を併用した集学的治療による治療成績の向上が目覚ましく、さらに低侵襲手術の導入によりシームレスな治療が可能となっています。

ロボット支援下膵手術



5. 小児外科班

班長：富山 英紀

小児外科班では16歳未満の小児の外科手術を担当しています。対象疾患は広く、鎖肛や小腸閉鎖のような消化管の先天性疾患だけでなく、頭頸部の先天性瘻孔、漏斗胸といった胸郭変形、腹腔内精巣や卵巣腫瘍といった泌尿器科婦人科的な疾患までも対象としています。年間80例前後の手術を手掛け、新生児症例も5～10例行っています。出生時体重が1000g未満の超低出生体重児の場合には、その繊細な

構造と組織強度を考慮しつつ細心の注意を払っており、NICUに於いて新生児科と共同で全身管理と治療にあたっています。虫垂炎や鼠径ヘルニアなどでは腹腔鏡下手術を導入していますが、創が臍だけである単孔式腹腔鏡手術、新生児および乳児期の手術では臍外縁のみの切開で行う開腹手術など、より整容性を目指した手術を行っています。



新生児の小腸閉鎖術後の臍創部



教室員一同